

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 2	1	百日咳	↘ 2	3
RSウイルス感染症	→ 0	0	ヘルパンギーナ	↘ 195	200
咽頭結膜熱	↗ 16	12	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↘ 8	9
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘ 91	93	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↘ 238	254	流行性角結膜炎(はやり目)	↘ 12	15
水痘	↘ 53	91	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↗ 100	92	無菌性髄膜炎	→ 2	2
伝染性紅斑(りんご病)	↘ 0	1	マイコプラズマ肺炎	→ 0	0
突発性発しん	↘ 42	49	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロウウイルス)	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ
- 手足口病

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

ヘルパンギーナ : 菊池、宇城
 手足口病 : 有明
 水痘 : 山鹿
 百日咳 : 水俣

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロウウイルス)
熊本市保健所			7	33	33	11	27		13		43	2		10		2			
山鹿保健所			1		25	10	6		2		6		*	*					
菊池保健所			3	22	65	10	8		7		81	1							
阿蘇保健所					2		1						*	*					
御船保健所					2						1		*	*					
八代保健所				2	24	7	14		3		1								
水俣保健所				3	1	4	3		1	2		1	*	*					
人吉保健所	1		2	4	14		3		5		10		*	*					
有明保健所			1	5	41	6	24		4		6	3		1					
宇城保健所	1		1	11	18	5	5		5		27		*	*					
天草保健所			1	11	13		9		2		20	1		1					
計	2		16	91	238	53	100		42	2	195	8	0	12	0	2	0	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	2													1								
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	0																					
咽頭結膜熱	16		1	6	2	1	3	1	1	1												
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	91			4	5	8	17	16	13	5	3	6	10	1	3							
感染性胃腸炎	238	3	24	42	29	23	22	16	11	11	7	10	28	3	9							
水痘	53		2	8	15	13	8	2	3			1										
手足口病	100		5	28	29	15	9	5	6	2	1											
伝染性紅斑	0																					
突発性発しん	42	2	19	20									1									
百日咳	2			1				1														
ヘルパンギーナ	195	1	20	63	35	25	29	8	8	2	2	1	1									
流行性耳下腺炎	8					1	1	2		1		2	1									
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	12		1		1		1							1	1	3	1	1	1	1		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	2							1		1												
マイコプラズマ肺炎	0																					
クラミジア肺炎	0																					
感染性胃腸炎(ロウウイルス)	0																					

腸管出血性大腸菌感染症(0157など)を予防しましょう

腸管出血性大腸菌感染症の報告は先週4件、今週7件と増えてきています。また、熊本市からは保育園における集団発生が報告されました。腸管出血性大腸菌感染症は、例年夏に流行しやすいため今後も十分な注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症は、溶血性尿毒症候群(HUS)や脳症などの重篤な合併症を引き起こすことがあり、命に関わる場合があります。HUSは特に5歳未満のお子さんに発症のリスクが高いことが報告されています。

腸管出血性大腸菌感染症を予防するためには、食肉の十分な加熱処理などによる食中毒の予防の徹底、手洗いの励行およびヒトからヒトへの2次感染を予防することが重要です。特にHUS等の重篤な合併症を発症するリスクが高いお子さんに対しては、以下の予防のポイントを参考に、周りの大人の方々が十分注意して予防してあげてください。

食中毒予防のために

- 調理の時には、こまめに手を洗います。特に、生肉を扱った手はすぐに石鹸で洗います。
- お肉は生で食べないようにしてください。必ず中心部までよく加熱して(75℃で1分以上)食べましょう。
- お肉を焼くときの取り箸は食べるお箸とは別にして、口に入れないようにしましょう。
- 生野菜はよく洗って食べましょう。
- 生の肉を扱った調理器具は、洗って熱湯をかけたのち、別の調理に使うことが大切です。

ヒトからヒトへの感染予防のために

- トイレの後や食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗います
- 患者さんのお世話をする方は、使い捨て手袋を使うなどして下痢便に直接触れないようにしてください。手袋をはずした後も十分に手を洗います。
- 下痢症状のあるときはプールの使用は控えます。